# 彙　　報

会長　早田輝洋

平成13年度第2回常任委員会

日　時：平成13年9月29日（土）午後2時～5時

場　所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室

出席者：早田輝洋（会長），梶　茂樹（事務局長），大石正幸，久保智之，坂本勉，坂本比奈子，清水克正，松村一登

オブザーバー：日比谷潤子（大会運営委員長），塩原朝子（事務局長補佐）

議題

［報告事項］

（1）平成12年度決算書の訂正

平成12年度決算書の一部にあった誤りを訂正する旨報告があった．消耗品費に関して，内訳部分の記載（29万7057円）と，総計部分の記載（33万6957円）に相違が見られたが，正しい額は総計部分の33万6957円である．

（2）『学術用語集言語学編』の著作権収入について

『学術用語集言語学編』の著作権収入として19万8450円の収入があったことが報告された．

［審議事項］

（1）第123回大会（九州大学，11月17日，18日）

大会運営委員会を9月8日，学会事務局（中西印刷）において開催し，プログラムと司会者の決定を行った．研究発表は62件の応募中，45件を採択した（採択率73パーセント）．大会では第一日の午後に開催校主催の公開シンポジウム（『こころの科学としての言語研究』）を，第二日の午前に J. K. Chambers 氏（トロント大学）の講演を企画し，両日の午後に研究発表を五会場にわけて行う予定である．

（2）第124回大会（東京外国語大学，6月15日，16日），第125回大会

梶　茂樹事務局長より第124回大会の準備状況について説明があった．また，第125回大会は11月3日，4日に東北学院大学で行う予定である．

優子（事務局長補佐代理）

議題

［報告事項］

（1）日本学術会議第19期会員の選出に係わる学会登録

上記の件に関して登録継続のため，5月末の締め切りに向け，前例通りに手続きを進めている．

（2）甲南大学「国際交流言語コロキウム」

日本言語学会が後援した甲南大学開催の「国際交流言語コロキウム『言語理論と言語教育』」（2002年3月26日～27日）に関して，主催者の甲南大学国際言語文化センターから，お礼の手紙があった．

（3）平成14年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）

平成14年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付の内定について配当額2,400,000円が内定した旨連絡があった．昨年に比べ配当額が増えたが，これは英語論文の割合が増えたことが評価されたものと思われる．

（4）『東洋学研ニューズ』第1号発行

日本言語学会から2口2万円の賛助金を支出した日本学術会議東洋学研究連絡委員会発行のニューズレター『東洋学研ニューズ』第1号発行が発行され，日本言語学会に20部送られてきた．

（5）学会ホームページ

従来，東京大学に置いてあった学会ホームページを，内容はそのままで学術情報センターに置く旨変更した．今後の管理やコンテンツ作成のため，小委員会を設立する方向で検討する．現在ホームページ作業部会の責任者である松村一登氏に人選を依頼し，四，五名の委員を推薦する予定である．

［審議事項］

（1）平成13年度決算報告

平成13年度の決算報告があり，了承された．

（2）平成14年度予算

平成14年度予算について審議を行い，委員会に提出する具体案を作成した．

（3）大学評価委員会専門委員候補者の推薦

上記委員が新たに募集されることになり，大学評価・学位授与機構から日本言語学会に推薦依頼があった．推薦方法について審議した結果，今回は時間の制約があることから常任委員会で選出し，推薦を行うことと

（3）「学生会員」の設定

上記の件について議論を行い，委員会に提案する案を作成した．案の骨子は以下のとおりである．大学，短大などに在籍する学生に関して，「学生会員」のカテゴリーを作り，会費を4,000円（在外会員5,500円）とする．

（ii）身分確認のために学生証のコピーなど学生の身分を証明するものを提出してもらう．

（iii）学生会員は，選挙権・被選挙権ともに持たないものとする（通常会員になれば両方を有することが可）．

（4）研究発表に関する規定の変更

上記の件について，発表要旨に関する規定，および，持ち時間中の質疑応答時間の配分に関する規定などの変更について議論を行い，委員会に提出する案を作成した．

（5）『危機言語』シンポジウム（11月30日～12月2日）の後援

科研費文部科学省特定領域研究（A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』主催のシンポジウムを日本言語学会で後援することを決定し，広報などの協力を行うことを確認した．

（6）言語学音声学国際学会（LP2002）の後援

上記国際学会（LP2002)(2002年9月2日～5日，於：明海大学）について，原口庄輔氏からの後援依頼に応じ，言語学会として後援を行い，後援金10万円を支出する旨委員会に提案することを決定した．

（7）『言語研究』の編集

金水　敏氏を新たに編集委員に迎えた旨報告があった．また，平成15年3月号として「移動」を特集テーマとする300～400ページ程度の英文誌を企画し，彙報部分と研究誌部分を分けて2分冊として出版することが提案されたが，細部を詰めるため継続審議となった．

（8）日本学術会議東洋学研究連絡委員会，ニュースレター発行賛助金

日本学術会議東洋学研究連絡委員会より上記の依頼があり，賛助金として2口2万円を支出することを決定した．

平成14年度第1回常任委員会

日　時：平成14年4月27日（土）午後2時～5時30分

場　所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階セミナー室

出席者：早田輝洋（会長），梶　茂樹（事務局長），庄垣内正弘，久保智之，清水克正，松村一登，坂本　勉，早津恵美子，大石正幸

オブザーバー：田窪行則（編集委員長），日比谷潤子（大会運営委員長），阿部

した．次回以降については，事態の推移を見守り，場合によっては委員会規定の変更を行い，選挙によって推薦を行うことが確認された．

（4） 科学研究費補助金審査委員候補者の推薦

平成15年度の審査から細目の大幅な変更があり，日本語，英語以外の言語については，細目言語学という枠で推薦を出すように変更があったため，音声学会，フランス語フランス文学会，独文学会，中国学会，中国語学会などと協議の上，それぞれ以下の推薦枠を割り当てることとした．

第一段（定数12，推薦枠24名）：フランス語・ドイツ語・中国語各2名で計6名，言語学会12名，音声学会6名．

第二段（定数2，推薦枠4名）：フランス語・ドイツ語・中国語には割り当てず，言語学会3名，音声学会1名とする．以上の決定を受けて，郵送による選挙を行うことが決定された．

（5） 第124回大会（東京外国語大学）のプログラムなど

日比谷潤子大会運営委員長より準備状況およびプログラムの報告があった．発表採択数は40件である．今後の大会については，ワークショップを公募する，ポスターセッションを導入，大会のテーマを設定するなどの案が検討された．

（6） 第125回大会について

上記大会を，東北学院大学で11月3日（日，祝日），4日（月，祝日代休）に行うことが決定され，大体の予定について，東北学院大学の大石正幸氏より報告があった．

（7） 『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする研究調査研究』主催の講演会

文部科学省特定領域研究（A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする研究調査研究』が6月1日（土），2日（日）に東京・神田の日本教育会館で開催する国際学術講演会について，日本言語学会が後援することが承認された．

（8） 小委員会からの報告

［A］ 夏期講座検討小委員会（田窪行則委員）

本年度は，長野県白樺湖畔において開催される．今後の予定については，継続の是非も含め，6月14日に委員会を開催して審議する．

［B］ 危機言語小委員会（堀　茂樹委員）

5月31日に小委員会を開く．今後，少数民族の権利について議論を深めていく．

［C］ 編集委員会（田窪行則委員長）

『言語研究』123号は，二冊の分冊とし，英語誌と日本語誌として発行する．英文校閲費は編集費から出費する．

（9）アメリカ言語学会夏期講座後援金

アメリカ言語学会夏期講座（LSA Summer Institute 2003）から後援金17,674,00ドルの要請があったが，審議の結果，この要請には応じないことが決定された．

(10) 今後の大会開催地について

・大阪市立大学関係者から大会開催の希望が提出された旨報告があった．これは次期執行部に決定を委ねることとし，早田会長から次期会長に申し送りすることが確認された．

・第126回大会開催地について候補が出されたが結論は出なかった．

(11) 名簿作成

平成14年末発行予定の日本言語学会会員名簿作成のためのデータベースの様式について議論が行われた．

平成14年度第1回委員会

日　時：平成14年6月15日（土）午前10時～午後12時半

場　所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室

出席者：早田輝洋（会長），梶　茂樹（事務局長），井出祥子，井上史雄，梅田博之，上野善道，尾上圭介，影山太郎，菊地康人，金水　敏，久保智之，郡司隆男，小泉　保，坂原　茂，坂本　勉，崎山　理，澤田治美，清水克正，庄垣内正弘，白井賢一郎，田窪行則，田野村忠温，田村すず子，辻　星児，角田太作，西光義弘，橋内　武，林　　徹，原口庄輔，原田かづ子，樋口康一，日比谷潤子，平野尊識，福井　玲，松村一登，宮岡伯人，村崎恭子，菱　司郎，湯川恭敏，吉田　豊（以上40名）

委任状：19名

オブザーバー：富盛伸夫（第124回大会実行委員長），荻野綱男（会計監査委員），窪薗晴夫（会計監査委員），塩原朝子（事務局長補佐）

議題

［報告事項］

議事に先立って第124回大会実行委員長，富盛伸夫氏（東京外国語大学外国語学部）から大会開催にあたっての挨拶があった．

（1）日本学術会議第19期会員の選出に係わる学会登録

上記の件に関して登録継続のため，〆切の5月末までに前例通りに手続きを進めた旨報告があった．

（2） 大学評価委員会専門委員候補者の推薦

上記の委員が新規に募集されることになり，日本言語学会に推薦依頼があった．推薦方法について常任委員会で審議した結果，今回は時間的制約があることから今年度の推薦においては常任委員で選出し，本人の打診を経て推薦を行うことにした．次年度以降については，推移を見守り，場合によっては規定の変更を行い，選挙を行う旨決定した．

（3） 平成15年度科学研究費補助金の審査委員候補者の推薦

上記委員の推薦に関して，日本学術会議より依頼があり，委員の郵便投票により，第一段審査委員候補として12名，そして第二段審査委員候補として３名を選び，推薦した旨報告があった．

常任委員会審議事項（4）および以下，報告事項（8)(B）参照．

（4） 平成14年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）

上記補助金の交付額が2,400,000円と内定した．昨年度（1,500,000円）に比べ配当額が大幅アップとなっている．

（5） 甲南大学「国際交流言語コロキウム」

日本言語学会が後援した上記「国際交流言語コロキウム『言語理論と言語教育』」（2002年３月26日～2002年３月27日）に関して，主催者である甲南大学国際言語文化センターから，謝意を表する手紙があった旨報告があった．

（6） 平成14年度第１回常任委員会の報告

梶　茂樹事務局長から平成14年４月27日（土）開催の上記委員会についての報告があった．（詳細は常任委員会報告を参照のこと．）

（7） 委員会・作業部会の活動報告

各委員会・作業部会から以下の報告があった．

(A) 大会運営委員会（日比谷潤子委員長）

第124回大会のプログラムなどについて報告があった．

(B) 編集委員会（田窪行則委員長）

『言語研究』122号，123号の編集状況について報告が行われた．122号の編集は順調に行われており，10月上旬に発行予定である．123号が英文号であることから，122号にできるだけ多くの邦文論文を掲載する予定である．また，現在試験的に運用されている英文執筆要綱を実際に採用することになった．また，邦文の執筆要綱を変更することになった．主な変更点は投稿論文の分量に関するものである．従来邦文論文の分量の上限は邦文400字詰め80枚分以内，欧文ダブルスペースで50枚分以内だったが，変更の結果，ページ数を，邦文，欧文とも40ページ以内とすることになった．（相当する邦文の分量はおおよそ90枚，欧文の分量

は15,000語である.)

この機会に，委員から執筆要綱のいくつかの箇所について変更の提案があり，田窪委員長が編集委員会に持ち帰って最終的な判断を下すことになった.(新しい執筆要綱は今号の『言語研究』巻末に掲載されている.)

(C) 危機言語小委員会（林　徹幹事）

5月31日に小委員会を開催し，今年度11月末に開催される特定領域研究の国際シンポジウムを後援することを決定した．また，今年度は少数民族の権利の問題を主たるテーマとして議論していることが報告された.

(D) 夏季講座小委員会（荻野綱男委員長）

現在，今年度開催の第3回夏期講座の申し込みを受け付け中で，現時点で107名の申し込みがある．〆切が6月末であることから，今後申し込みがさらに増える可能性がある．180名参加で100万円程度の赤字が試算されている．夏期講座開始当初より第3回までを「試行段階」として実施するということであったため，今回の講座の実施後，今後の夏期講座の実施について検討を行う予定である.

(E) ホームページ作業部会（松村一登氏）

日本言語学会ホームページを東京大学文学部のサーバーから国立情報学研究所のサーバに移した（「学協会情報発信サービス」を利用）．これは，ホームページ管理の引継ぎを容易にするためである.

(8) 日本学術会議研究連絡委員からの報告

(A) 東洋学研究連絡委員（梅田博之氏）

「『アジア』とは何か」と題するシンポジウムを平成13年11月17日に大正大学で開催した．また，『東洋学研連ニューズ』第1号を発行した．当学会にはニューズレター20部が送られてきた.

(B) 語学文学研究連絡委員（上野善道氏）

今年度より，科研費の審査の枠組みに大きな変更があった．人文学分野では分科が文学と言語学に分かれ，日本語と英語以外の言語に関しては，細目言語学の枠で推薦が行われるようになった．従来は，例えばフランス語に関しては日本フランス語フランス文学会が候補者を推薦していたが，これからは日本フランス語フランス文学会は文学に関してのみ推薦を行う．ドイツ語，中国語なども同様である．この様な状況に鑑み，日本フランス語フランス文学会および日本独文学会から，審査委員候補者に関して配慮を求める要望書が日本言語学会に対してあった.

[審議事項]

(1) 平成13年度の決算報告があり，了承された．これは，2002年4月16日，

会計監査委員，荻野綱男氏，窪園晴夫氏により，適正であると認められたものである．（別表１参照）

（２） 平成14年度予算を審議の末決定した．（別表２参照）

（３） 第125回大会について
平成14年11月３日（日，休日），４日（月，代休）の２日間，東北学院大学（仙台市）を会場に開催することが提案され，了承された．

（４） 夏期講座検討小委員会の委員に従来の委員の他に日比谷潤子氏を任命することが同委員会の荻野綱男氏より提案され，了承された．

平成13年度第２回「危機言語」小委員会

日　時：2001年11月30日（金）午前11時～午後12時45分

場　所：京都国際会館103号室

出席者：池田　巧，梅田博之，梶　茂樹，坂本比奈子，崎山　理，笹間史子，田村すず子，角田太作，津曲敏郎，奈良　毅，林　　徹，稗田　乃，福井　伶，峰岸真琴，宮岡伯人

議題

［審議事項］

（１） 来年度の活動について
かねてから懸案の小委員会のホームページ立ち上げについてさまざまな角度から検討がなされたが，６月までを試行期間として麗澤大学で引き受けることが決まった．当面は，小委員会が新年度からはじめる予定の研究会のお知らせと報告，他の研究会のお知らせ，小委員会の連絡用掲示板などとする．

（２） 研究会の件
新年度から開催が決定していた，「危機言語」研究の諸問題を考える研究会は，角田委員が世話役となり，第１回目は著作権をテーマに，大東文化大学の石山文彦教授に講演を御願いすることが決まった．日にちは未定である．

（３） 言語学会による研究成果の刊行の件
特定領域研究「環太平洋の言語」が最終年度となり，その後の研究成果の刊行について議論が行われた．少数言語の研究成果を発表することはなかなか困難であるので，言語学会から援助が得られないかということであるが，言語学会によるモノグラフの刊行，あるいは出版助成の可能性などが話し合われた．今後，委員会などに計ることとなる．

（４） 2002年度予算について
2001年度の小委員会費は20万円計上されているが，ホームページの開

設・維持の費用，研究会開催費などのために増額を要求することが認められた．

［報告事項］

シンポジウム後援について

11月30日から12月2日にかけて行われた，特定領域科研「環太平洋の言語」が主催する国際シンポジウムの言語学会後援について，委員会の承認を得たことが報告された．実質的に言語学会が行ったことは，ポスターを言語学会委員に送付したことである．

平成14年度第1回「危機言語」小委員会

日　時：2002年5月30日（金）午後2時～5時

会　場：東京大学山上会館002会議室

出席者：奥田　知巳，梶　茂樹，坂本　比奈子，崎山　理，笹間　史子，田村すず子，角田　太作，津曲　敏郎，中川　裕，奈良　毅，林　　徹，稗田　乃，福井　伶，峰岸　真琴，村崎恭子

議題

［報告事項］

（1）第三回国際学術講演会の後援について

6月1日，2日に科研「環太平洋の言語」主催の国際講演会「消滅に瀕した言語」が行なわれるが，これに日本言語学会が後援をすることが小委員会において承認され，後日委員会で事後承認を受ける旨，委員長から報告が行われた．

（2）2001年度予算収支報告について

2001年度予算収支報告が委員長から行われた．

（3）ホームページの立ち上げについて

危機言語小委員会のホームページを坂本委員が立ち上げ，試験運用が行われている旨，報告が行われた．

［審議事項］

（1）2002年度予算と来年度の活動について

2002年度予算にホームページの維持管理費を計上することが承認された．

（2）研究会の開催について

外部などから講師を招いて研究会を行いたいという意見が出され，承認

された．

（3） 来年度以降の委員の選出について

危機言語委員会の任期終了に伴い，次回委員会で新しい委員候補者を選出することが確認された．

（4） 小委員会の今後の活動

今まで，宮岡科研の支援が小委員会の重要な任務の一つであったが，今年度をもって同科研が終了することもあり，今後は独自の活動を展開することが確認された．

（5） その他

・ホームページの今後について

小委員会のホームページは，とりあえず麗澤大学のサーバーにおくということであったが今後どうするかということが坂本委員長から出され，最終的には言語学会と同じところにおくべきだが，しばらくは現状でよいということが確認された．

・シンポジウムの開催について

小委員会主催のシンポジウムを開催したいという意見が梶委員から出され，来年度の活動として次回委員会で改めて話し合うことになった．

議事終了後に，先住民族の権利に関するワーキンググループからの報告が行われ，活発な討論が行われた．今後も，この活動を継続する予定である．

〔別表1〕 平成13年度　日本言語学会決算

自　平成13年4月　至　平成14年3月　　（単位　円）

| 収入 | | 支出 | |
|---|---|---|---|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 会費 | 14,275,500 | 刊行費 | 5,556,705 |
| 雑誌売上 | 2,391,675 | 発送費 | 437,470 |
| 科学研究費補助金 | 1,500,000 | 編集費 | 376,664 |
| 預金金利 | 15,281 | 事務委託費 | 4,284,000 |
| 大会関係収入 | 1,448,500 | 大会関係費 | 3,117,274 |
| 雑収入 | 230,986 | 委員会費 | 208,708 |
| 積立からの繰入金 | 2,800,000 | 常任委員会費 | 438,040 |
| | | 大会運営委員会費 | 458,474 |
| | | 危機言語小委員会費 | 199,955 |
| | | 夏期講座検討小委員会費 | 164,280 |
| | | Pacific Rim Institute 検討小委員会 | 0 |
| | | Pacific Rim Institute 奨学金 | 950,000 |
| | | Pacific Rim Institute 派遣旅費 | 2,400,000 |
| | | 危機言語シンポジウム費 | 0 |
| | | CIPL 負担金 | 100,000 |
| | | 通信費 | 442,773 |
| | | 事務局費 | 659,486 |
| | | 消耗品費 | 161,611 |
| | | ホームページ作成費 | 52,500 |
| | | 雑費 | 40,359 |
| | | 予備費 | 200,000 |
| | | ＜積立金＞ | |
| | | 選挙積立金 | 300,000 |
| | | 名簿作成積立金 | 700,000 |
| | | 夏期講座積立金 | 400,000 |
| | | 危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 |
| | | 記念大会積立金 | 400,000 |
| 収入合計 | 22,661,942 | 支出合計 | 22,448,299 |
| 前期繰越金 | 2,102,859 | 次期繰越金 | 2,316,502 |
| 計 | 24,764,801 | 計 | 24,764,801 |

◇収入内訳(単位 円)

会費

| | |
|---|---|
| 国内個人会員 | 12,896,500 |
| 国内団体会員 | 822,500 |
| 国内維持会員 | 130,000 |
| 在外個人会員 | 426,500 |
| 合 計 | 14,275,500 |

雑誌売上

| | |
|---|---|
| 三省堂書店 | 66,150 |
| 松香堂書店(取り次ぎ業務委託) | 1,935,725 |
| 丸 善 | 258,300 |
| その他書店 | 44,100 |
| バックナンバー売上 | 87,400 |
| 合 計 | 2,391,675 |

科学研究費補助金 1,500,000

預金金利 15,281

大会関係収入

| | |
|---|---|
| 123回大会出店料 | 30,000 |
| 122回大会出店料 | 70,000 |
| 120回大会出店料 | 10,000 |
| 111～121回大会予稿集売上 | 68,500 |
| 122回大会予稿集売上 | 810,500 |
| 123回大会予稿集売上 | 459,500 |
| 合 計 | 1,448,500 |

雑収入

| | |
|---|---|
| 120号抜刷代 | 5,341 |
| 119号抜刷代 | 19,160 |
| 118号抜刷代 | 7,325 |
| 学術用語集著作権料 | 198,450 |
| 予稿集コピーサービス | 710 |
| 合　計 | 230,986 |

積立からの繰入金

| | |
|---|---|
| 平成12年度国際関係積立より | 500,000 |
| 平成11年度国際関係積立より | 800,000 |
| 平成10年度国際関係積立より | 750,000 |
| 平成10年度夏期講座積立より | 750,000 |
| 合　計 | 2,800,000 |

◇支出内訳（単位　円）

刊行費　　印刷部数　各号共に2,400部

| 内訳 | 120号（220p.） | 121号（230p.） | 計（450p.） |
|---|---|---|---|
| 印刷費 | 2,679,600 | 2,801,400 | 5,481,000 |
| 抜刷代 | 28,665 | 47,040 | 75,705 |
| 合　計 | 2,708,265 | 2,848,440 | 5,556,705 |

*割付・校正料は印刷費に含む

発送費　437,470

『言語研究』発送料（追加発送料は含まない）

編集費

| | |
|---|---|
| 通信費 | 54,540 |
| 会議費 | 34,229 |
| 旅　費 | 98,400 |
| アルバイト費 | 174,000 |
| 消耗品費 | 15,495 |
| 合　計 | 376,664 |

事務委託費　4,284,000　2001年4月分～2002年3月分
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

大会関係費

| 内　訳 | 第122回 | 第123回 | 計 |
|---|---|---|---|
| プログラム印刷費 | 136,500 | 136,500 | 273,000 |
| ポスター印刷費 | 73,500 | 73,500 | 147,000 |
| 出欠葉書印刷費 | 22,050 | 22,050 | 44,100 |
| プログラム発送費 | 186,090 | 196,360 | 382,450 |
| 大　会　費 | 425,837 | 404,237 | 830,074 |
| 予稿集印刷費 | 553,350 | 564,900 | 1,118,250 |
| | (600部発行) | (550部発行) | |
| 講師謝金 | 174,400 | 148,000 | 322,400 |
| 合　計 | 1,571,727 | 1,545,547 | 3,117,274 |

委員会費

| | |
|---|---|
| 通信費 | 37,500 |
| 会議費 | 171,208 |
| 合　計 | 208,708 |

常任委員会費

| | |
|---|---|
| 通信費 | 0 |
| 会議費 | 78,800 |
| 旅　費 | 359,240 |
| 合　計 | 438,040 |

大会運営委員会費

| | |
|---|---|
| 会議費 | 93,474 |
| 旅　費 | 358,000 |
| アルバイト代 | 7,000 |
| 合　計 | 458,474 |

| | | |
|---|---|---|
| 危機言語小委員会費 | | |
| 通信費 | | 35,600 |
| 会議費 | | 55,355 |
| 旅　費 | | 109,000 |
| 合　計 | | 199,955 |
| 夏期講座検討小委員会費 | | |
| 通信費 | | 630 |
| 会議費 | | 16,500 |
| 旅　費 | | 147,150 |
| 合　計 | | 164,280 |
| Pacific Rim Institute 検討小委員会 | 0 | |
| Pacific Rim Institute 奨学金 | 950,000 | |
| Pacific Rim Institute 派遣旅費 | 2,400,000 | |
| 危機言語シンポジウム費 | 0 | |
| CIPL 負担金 | 100,000 | |
| 通信費 | | |
| 切手購入 | | 120,870 |
| 銀行 FAX 料金 | | 15,120 |
| 会費請求・督促状送付 | | 38,150 |
| カード手数料・送金手数料 | | 110,912 |
| 『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー発送 | | 35,791 |
| 発表採否通知・司会者依頼状等大会関係送料 | | 105,130 |
| その他（文部省提出書類発送等） | | 16,800 |
| 合　計 | | 442,773 |

事務局費

| | |
|---|---|
| 通信費 | 6,220 |
| 会議費 | 49,266 |
| 旅　費 | 124,000 |
| 消耗品費 | 0 |
| 事務局長費・事務局長補佐経費 | 480,000 |
| 合　計 | 659,486 |

消耗品費

| | |
|---|---|
| 文房具（領収証等） | 436 |
| 封筒・振替用紙（印刷費含む） | 137,025 |
| 会費納入依頼など（印刷費含む） | 24,150 |
| 合　計 | 161,611 |

ホームページ作成費　52,500

雑費

| | |
|---|---|
| 千野先生告別式供花代，弔電代 | 20,359 |
| 東洋学研連寄附金 | 20,000 |
| 合　計 | 40,359 |

予備費

| | |
|---|---|
| 中国国際学会後援金 | 100,000 |
| 国際学会（LP2002）後援金 | 100,000 |
| 合　計 | 200,000 |

| | | |
|---|---|---|
| 選挙積立金 | 300,000 | （定期Bへ） |
| 名簿作成費積立金 | 700,000 | （定期Bへ） |
| 夏期講座積立金 | 400,000 | （定期Bへ） |
| 危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 | （定期Bへ） |
| 記念大会積立金 | 400,000 | （定期Bへ） |

日本言語学会
平成13年度決算　予算・実績対照表
収入　　(単位　円)

| 科　目 | 予　算 | 実　績 | 対予算差異 |
|---|---|---|---|
| 会　費 | 13,600,000 | 14,275,500 | 675,500 |
| 雑誌売上 | 1,200,000 | 2,391,675 | 1,191,675 |
| 科学研究費補助金 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 |
| 預金金利 | 15,000 | 15,281 | 281 |
| 大会関係収入 | 1,500,000 | 1,448,500 | △ 51,500 |
| 雑収入 | 50,000 | 230,986 | 180,986 |
| 積立からの繰入金 | 3,350,000 | 2,800,000 | △ 550,000 |
| 収入合計 | 21,215,000 | 22,661,942 | 1,446,942 |
| 前期繰越金 | 2,102,859 | 2,102,859 | 0 |
| 合　計 | 23,317,859 | 24,764,801 | 1,446,942 |

△＝実績－予算

支出 （単位 円）

| 科目 | 予算 | 実績 | 対予算差異 |
|---|---|---|---|
| 刊行費 | 5,000,000 | 5,556,705 | △ 556,705 |
| 発送費 | 450,000 | 437,470 | 12,530 |
| 編集費 | 600,000 | 376,664 | 223,336 |
| 事務委託費 | 4,284,000 | 4,284,000 | 0 |
| 大会関係費 | 2,800,000 | 3,117,274 | △ 317,274 |
| 委員会費 | 200,000 | 208,708 | △ 8,708 |
| 常任委員会費 | 600,000 | 438,040 | 161,960 |
| 大会運営委員会費 | 700,000 | 458,474 | 241,526 |
| 危機言語小委員会費 | 200,000 | 199,955 | 45 |
| 夏期講座検討小委員会費 | 250,000 | 164,280 | 85,720 |
| Pacific Rim Institute 検討小委員会 | 150,000 | 0 | 150,000 |
| Pacific Rim Institute 業務旅費 | 3,350,000 | 3,350,000 | 0 |
| 危機言語シンポジウム費 | 300,000 | 0 | 300,000 |
| CIPL 負担金 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 通信費 | 500,000 | 442,773 | 57,227 |
| 事務局費 | 800,000 | 659,486 | 140,514 |
| 消耗品費 | 300,000 | 161,611 | 138,389 |
| ホームページ作成費 | 300,000 | 52,500 | 247,500 |
| 雑費 | 133,859 | 40,359 | 93,500 |
| 予備費 | 100,000 | 200,000 | △ 100,000 |
| 選挙積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 名簿作成積立金 | 700,000 | 700,000 | 0 |
| 夏期講座積立金 | 400,000 | 400,000 | 0 |
| 危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 | 400,000 | 0 |
| 記念大会積立金 | 400,000 | 400,000 | 0 |
| 支出合計 | 23,317,859 | 22,448,299 | 869,560 |
| 次期繰越金 | | 2,316,502 | △ 2,316,502 |
| 合計 | 23,317,859 | 24,764,801 | △ 1,446,942 |

△＝予算－実績

日本言語学会　平成13年度決算

資産勘定　　（単位　円）

| 借　方 | 金　額 | 貸　方 | 金　額 |
|---|---|---|---|
| 本部事務局 | (18,101,577) | 前受会費 | |
| 現金 | 1,037,320 | 国内個人 | 192,000 |
| 第一勧業銀行　普通 | 486,576 | 国内学生 | 60,000 |
| 定期A | 2,700,000 | 国内団体 | 7,000 |
| 定期B | 10,600,000 | 在外個人 | 32,500 |
| 郵便振替貯金 | 3,277,681 | 在外学生 | 5,500 |
| カード | 0 | 積立金繰入 | 10,600,000 |
| 事務局 | (560,635) | 未払金 | 6,198,710 |
| 事務局口座 | 294,333 | 次期繰越 | 2,316,502 |
| 常任委員会口座 | 266,302 | | |
| 仮払金 | 750,000 | | |
| 計 | 19,412,212 | 計 | 19,412,212 |

* 未払金は当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目
* 平成13年度決算の未払金は『言語研究』第120，121号の印刷代，抜刷印刷代，121号発送代，事務委託費３月分，ホームページ作成費，封筒印刷代
* 仮払金2002年度夏期講座経費

第一勧業銀行　定期B

（単位　円）

| | |
|---|---|
| 平成13年度選挙積立金 | 300,000 |
| 平成13年度名簿作成積立金 | 700,000 |
| 平成13年度夏期講座積立金 | 400,000 |
| 平成13年度危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 |
| 平成13年度記念大会積立金 | 400,000 |
| 平成12年度選挙積立金 | 300,000 |
| 平成12年度夏期講座積立金 | 400,000 |
| 平成12年度危機言語プロジェクト積立金 | 200,000 |
| 平成12年度記念大会積立金 | 400,000 |
| 平成12年度名簿作成積立金 | 700,000 |
| 平成11年度記念大会積立金 | 500,000 |
| 平成11年度夏期講座積立金 | 750,000 |
| 平成10年度記念大会積立金 | 250,000 |
| 平成10年度危機言語積立金 | 500,000 |
| 平成9年度積立金 | 2,200,000 |
| 平成8年度積立金 | 2,200,000 |
| 計 | 10,600,000 |

項目ごとの内訳

| | | |
|---|---|---|
| 記念大会積立金 | | (1,550,000) |
| | 平成13年度 | 400,000 |
| | 平成12年度 | 400,000 |
| | 平成11年度 | 500,000 |
| | 平成10年度 | 250,000 |
| 選挙積立金 | | (600,000) |
| | 平成13年度 | 300,000 |
| | 平成12年度 | 300,000 |
| 名簿積立金 | | (1,400,000) |
| | 平成13年度 | 700,000 |
| | 平成12年度 | 700,000 |
| 夏期講座積立金 | | (1,550,000) |
| | 平成13年度 | 400,000 |
| | 平成12年度 | 400,000 |
| | 平成11年度 | 750,000 |
| 危機言語プロジェクト積立金 | | (1,100,000) |
| | 平成13年度 | 400,000 |
| | 平成12年度 | 200,000 |
| | 平成10年度 | 500,000 |
| 積立金 | 平成９年度 | 2,200,000 |
| | 平成８年度 | 2,200,000 |
| 計 | | 10,600,000 |

〔別表2〕 平成14年度 日本言語学会予算

自 平成14年4月 至 平成15年3月 (単位 円)

| 収入 | | 支出 | |
|---|---|---|---|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 会費 | 14,500,000 | 刊行費 | 7,600,000 |
| 雑誌売上 | 2,000,000 | 発送費 | 600,000 |
| 科学研究費補助金 | 2,400,000 | 編集費 | 750,000 |
| 預金金利 | 15,000 | 事務委託費 | 4,284,000 |
| 大会関係収入 | 1,400,000 | 大会関係費 | 3,200,000 |
| 雑収入 | 35,000 | 委員会費 | 200,000 |
| 積立からの繰入金 | 3,500,000 | 常任委員会費 | 600,000 |
| (12,13年度選挙積立金) | (600,000) | 大会運営委員会費 | 600,000 |
| (12,13年度名簿作成費積立金) | (1,400,000) | 危機言語小委員会費 | 300,000 |
| (11年度夏期講座積立金) | (750,000) | 夏期講座検討小委員会費 | 200,000 |
| (8年度積立金から) | (750,000) | ホームページ作成費 | 300,000 |
| | | 選挙関係費 | 900,000 |
| | | 名簿作成費 | 2,100,000 |
| | | 夏期講座費 | 1,500,000 |
| | | CIPL 負担金 | 100,000 |
| | | 通信費 | 500,000 |
| | | 事務局費 | 700,000 |
| | | 消耗品費 | 200,000 |
| | | 雑費 | 32,502 |
| | | 予備費 | 100,000 |
| | | <積立金> | |
| | | 夏期講座積立金 | 600,000 |
| | | 記念大会積立金 | 400,000 |
| | | 危機言語プロジェクト積立金 | 400,000 |
| 収入合計 | 23,850,000 | 支出合計 | 26,166,502 |
| 前期繰越金 | 2,316,502 | | |
| 計 | 26,166,502 | 計 | 26,166,502 |

## 第124回大会

期　日　2002年6月15日（土）～16日（日）
会　場　東京外国語大学

### 第1日（6月15日）

公開講演・総会・シンポジウム　午後1時15分～6時20分

開会の辞　会　長
開催校挨拶　池端雪浦
講　演　A New Horizon in Linguistic Research　藤村　靖
総　会
シンポジウム　「諸言語の動詞分類」　司　会　在間　進
講　師
風間伸次郎「動詞分類の基準と諸言語の動詞分類」
ラトクリフ，ロバート
「アラビア語とセム系の言語におけるヴァーレンスと態」
峰岸真琴「シンタグマから見た動詞」
影山太郎「概念構造の基本形とその展開：日本語と英語の対比」

### 第2日（6月16日）

研究発表　午前10時～午後3時50分

◦A 会 場

司会　庵　功雄
(A 1)　10：00～　数量詞「ひとつ」の意味と用法　坂本智香
—「N ひとつ V ない」構文を中心に—
(A 2)　10：30～　「はおろか／どころか」構文に関する　澤田　治
—考察　—意味論的・語用論的尺度性のメカニズムを探る—
(A 3)　11：00～　「(そう) かといって」と　森　貞
「(そう) だからといって」について
司会　三原　健一
(A 4)　1：00～　複合動詞「－出す」の分類　日野資成
—統語論的・意味論的見地から—
(A 5)　1：30～　日本語における二人称指示　金井勇人
—定記述とメトニミーの関係—
(A 6)　2：00～　三部門並列モデルに基づく中間語彙　朝賀俊彦
項目の分析

司会 加藤 泰彦

(A 7) 2：50～ 省略表現と同一性条件 向井絵美

(A 8) 3：20～ ーしかは否定極性項目ではない 片岡喜代子

◦B 会場

司会 坂原 茂

(B 1) 10：00～ The Effect of "Manner" on Causation —Manipulative versus Directive Causation— 兼元美友

(B 2) 10：30～ 日英語のうなぎ文 時崎久夫

司会 長谷川信子

(B 4) 1：00～ Japanese coordination: a null conjunction analysis 小谷克則

(B 5) 1：30～ Phase, Agree, and Licensing of Wh+*Mo* in Japanese 前田佳美

(B 6) 2：00～ Contrastive-Topic wa as Focus Interpretation Operator 宗像 孝

司会 松岡 和美

(B 7) 2：50～ 空演算子無移動仮説における日本語関係節 —照応詞認可と島の効果— 北尾泰幸

(B 8) 3：20～ 日本手話の WH- 疑問文 —文末 WH- 要素と WH- 表情との関連— 山本将司

◦C 会場

司会 羅蘭 晴夫

(C 1) 10：00～ Phonetic evidence for a phonological word of two to four moras in Japanese 森 麗子

(C 2) 10：30～ 中国吉林省で話されている朝鮮語の動詞アクセント 河須崎英之

(C 3) 11：00～ アクセントの獲得と幼児語彙における方言アクセントの生起分布 白勢彩子 筧 一彦 桐谷 滋

司会 藪 司郎

(C 4) 1：00～ アラビア語方言の動詞語幹母音比較 長渡陽一

(C 5) 1：30～ チノ語の介音について —ロロ＝ビルマ諸語との比較研究から— 林 範彦

(C 6) 2：00～ 『漢回合璧』新ウイグル口語の音韻特徴について 西村多慧

司会　高垣　敏博

(C 7)　2：50～　句を包摂する複合語の研究　小松千明
—日中英の事例に基づいて—

(C 8)　3：20～　スペイン語の ¿Es que ...? と「ノ（ダ）」疑問文　和佐敦子

◦D 会場

司会　金水　敏

(D 1)　10：00～　The Icelandic Perfect: Examining Texture in Discourse　山口登志子

(D 2)　10：30～　ロシア語副動詞主体の問題点　北上光志

(D 3)　11：00～　英語における談話展開の方法　田中香織
—日本語における談話展開の方法との比較—

司会　鷲尾　龍一

(D 4)　1：00～　ハンガリー語の再帰，中間構文における受動の含意：他動性と関連して　野瀬昌彦

(D 5)　1：30～　ベトナム語における動詞のヴォイス範疇の存否について　Le Hoang

(D 6)　2：00～　オリヤ語の動詞使役形 kar-aa-「させる」の意味　山部順治

司会　藤代　節

(D 7)　2：50～　台湾語の「動詞－補語構造」に現れる tioh の意味　多田　恵

(D 8)　3：20～　サハ語（ヤクート語）の Paired Words　江畑冬生

◦E 会場

司会　井上　優

(E 1)　10：00～　「第三者の受け身」は，なぜ「被害の意」を含意するのか
—日本語，インドネシア語対照に基づく一考察—　湯浅章子

(E 2)　10：30～　日本語の使役形態素「させ」について　加藤弟子

(E 3)　11：00～　「構文」の意味的動機づけに関する一考察
—「X ガ Y ニ V する」を例に—　李　在鎬

司会　荻野　綱男

(E 4)　1：00～　マアの人々の言語使用　安部麻矢

(E 5)　1：30～　依頼と申出に関する社会語用論的考察　小林正佳

(E 6)　2：00～　日韓両言語における敬語意識の対照研究
—文化庁の世論調査の追試—　金　順任

司会　西山　佑司

(E 7)　2：50～　付加詞の主語化に見る意味構造と統語構造のインターフェイス　谷脇康子

(E 8)　3：20～　英語の慣用表現における距離のメタファー　辻本智子

◇ 退　　会

国内会員　57名

在外会員　3名

国内団体　3件

◇ 事務局の手違いにより，平成13年度第2回常任委員会報告が『言語研究』121号（2002年3月発行）の彙報に掲載されませんでした．121号の204ページ以下にある「平成13年度第2回常任委員会」は，「平成13年度第2回委員会」の誤りです．「平成13年度第2回常任委員会」は本号に掲載します．また，平成13年度第2回危機言語小委員会報告も，121号に掲載されませんでした．これも本号に掲載します．不手際を会員の皆様にお詫びいたします．

◇ 本学会委員神尾昭雄氏は平成14年2月25日に，同千野栄一氏は平成14年3月19日にお亡くなりになりました．謹んで哀悼の意を表します．

◇ 本誌は，文部科学省平成14年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである．